

	実 態 と 課 題	授 業 改 善 策
国語	・平仮名や漢字の習得は、ほとんどの児童ができています。 ・促音、長音、拗音が書けない児童がいる。 ・「は」「を」「へ」等の助詞を正しく用いた文を書くことができない児童がいる。 ・話の内容を正しく聞き取ることができない児童がいる。	・読みと書きが一致できるプリントなどを準備し、覚えられるよう繰り返し学習させる。 ・読み書きできる児童には字形や筆順に目を向けさせ、丁寧に正しく文字を書けるよう指導する。 ・授業や家庭学習で言葉作りや視写を行う活動を多く取り入れ、書き慣れるようにしていく。個別指導を行い、定着を図る。 ・日常で文章を書く際にも注意を促したり、文の間違い探しのプリント等を用意したりし、文章の中で正しく活用できるように繰り返し学習させる。 ・話を集中して聞くことができるよう、話す・聞くのルールを明確にし、提示する。
算数	・就学前の経験や計算力の個人差が大きい。 ・足し算、引き算の基礎は身に付いている児童が多い。 ・文章題をよく読まずに、正しく立式できない児童がいる。	・授業や家庭学習、朝学習などで計算練習を行う。具体物を数えたり、大きさ比べをしたりすることを繰り返すことで理解を深め、定着できるようにする。 ・数の合成分解を意識させる。 ・文章題を解く際は、ブロック操作や図を用いて考えることで問題場면을捉えさせ、立式できるようにする。また、式を読む学習からも、正しい立式の仕方を意識させる。
生活	・自然や生きものに対して関心をもっている児童が多いが、触れ合う機会が少ない。 ・人との関わりや話し合いの場面が少ない。	・地域の公園などを利用し、自然と触れ合う機会を増やす。 ・植物や生きものの観察で気付いたことを共有する場面を設定する。考えを交流することで、課題を発見したり、課題の解決策を見付け出したりできるようにしていく。 ・季節感を大事にして自然を観察したり体験したりさせる。 ・個人の考え方を大切にし、他の児童の考え方との違いに気付かせるようにする。 ・自然や物事をよく見たり、確かめたりする活動を行い、季節の変化に気付いたり、自然の不思議を考えたりできるようにする。
音楽	・新しい曲でも、リズムを感じたり、メロディーを口ずさんだりして音楽活動を楽しんでいる児童が多い。 ・鍵盤ハーモニカの技能は、就学前の経験による個人差が大きい。	・身体を動かしたり、身体でリズムを取ったりする活動を取り入れ、意欲を継続させる。 ・歌唱においては、口の開け方、姿勢、息の使い方を指導していく。 ・鍵盤ハーモニカの指導では、音の出し方を意識させ、指番号や階名、指遣いの練習をさせる。 ・合奏を通して、皆で合わせる楽しさを感じられるようにしていく。
図工	・用具の使い方、折る、切る、貼る、塗る等の活動経験に個人差が大きい。 ・意欲的に活動に取り組むことができるが、最後まで集中することができず、仕上がりに差がでてしまう。 ・友達の作品のよさに気付いたり、自分の作品のよさを伝えたりする姿が見られる。	・基本的な用具の使い方を、繰り返し指導する。 ・場面に合った用具の使い方を、児童と一緒に考えながら確認することで、自分でも工夫しながら用具を使おうとする意欲をもたせる。 ・自分の作品について友達に伝える場面や友達の作品のよさを直接相手に伝える機会を多くもつ。
体育	・ほとんどの児童は初めての運動や動きを楽しんで活動を行っている。 ・きまりやルールを守り、安全に気を付けて活動できている児童がほとんどである。 ・就学前の遊びや運動経験に差があり、思うように自分の体を動かすことのできない児童がいる。	・楽しんで取り組める活動を増やし、「できた」感覚を味わえるようにする。 ・スモールステップを生かして、互いに教え合ったり仲良く取り組んだりすることで、一緒に運動する楽しさを感じさせる。